

科目名	特別支援教育概論 Special needs education outline						
科目担当者	若林 上総 WAKABAYASHI Kazusa						
単位数	2	配当年次	2年	授業形態	講義	開講学期	前期
履修学部・学科 [区分] 他学部他学科履修	法学部・法律学科 [専門教育科目 自由科目] 経営学部・経営学科 [専門教育科目 自由科目]					ディプロマポリシーとの関連	(2)(6)
授業の概要	通常の学級には、限局性学習症（SLD）及び注意欠如・多動症（ADHD）、自閉スペクトラム症（ASD）等の発達障害や、軽度知的障害をはじめとする様々な特性のある児童生徒が在籍している。特別の支援を必要とする児童生徒が示すさまざまな困難の解決及び学校適応の促進のためには、児童生徒の特性に対する理解が必要になる。加えて、特別支援教育の考え方と教育課程、特別支援教育の体制整備、関係機関との連携に関する理解も要する。講義ではこれらを取り扱い、児童生徒に必要な教育的支援の必要性に対する気づきを深める。						
授業の到達目標	①特別の教育的支援を必要とする幼児・児童・生徒に対する教育制度や教育課程、支援体制を理解する。 ②特別の教育的支援を必要とする幼児・児童・生徒の障害の特性及び心理社会的適応の問題、支援方法を理解する。 ③個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成する意義や方法を理解する。						
授業計画・内容	1	特別支援教育の理念と制度					
	2	インクルーシブ教育システム					
	3	特別支援教育の教育課程					
	4	通級による指導と自立活動					
	5	特別支援教育体制整備と関係機関や家庭との連携					
	6	限局性学習症の特性					
	7	限局性学習症の教育的支援の実際					
	8	注意欠如・多動症の特性					
	9	注意欠如・多動症の教育的支援の実際					
	10	自閉スペクトラム症の特性					
	11	自閉スペクトラム症の教育的支援の実際					
	12	特別支援学校で学ぶ児童生徒の特徴					
	13	障害はないが特別な教育的ニーズのある児童生徒の支援の実際					
	14	個別の教育支援計画・個別の指導計画の検討					
	15	個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成演習					
授業外学修 (事前学修)	事前に提示する配付資料、参考文献を確認し、授業範囲を予習しておくこと（毎週2時間程度）。						
授業外学修 (事後学修)	配付資料、参考文献を確認しながら、自身のノートを作成し、要点をまとめること（毎週2時間程度）。						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法				評価比率	到達目標との対応	
	特別支援教育の制度、教育課程、支援体制の理解 児童生徒の特性や適応問題と支援の在り方の理解 個別の指導計画の指導計画の作成演習の成果物				40% 40% 20%	① ①、② ①、②、③	
成績評価基準	秀：（評点90点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点80点～89点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点70点～79点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点60点～69点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点60点未満）到達目標に達していない場合						
教科書							
参考文献	小林倫代 編著「教員と教員になりたい人のための 特別支援教育のテキスト—気付き、工夫して、つなげる。」(Gakken)						
その他	本科目は、教室で出会う児童生徒の多様性を取り上げる。授業ごとに、児童生徒が直面する課題にどのように対応するかを考える機会も設定する。受講生には、「自分が先生になったら」という想像力を働かせ、自ら学ぶ意欲、主体性をもって講義に参加することを期待する。						